

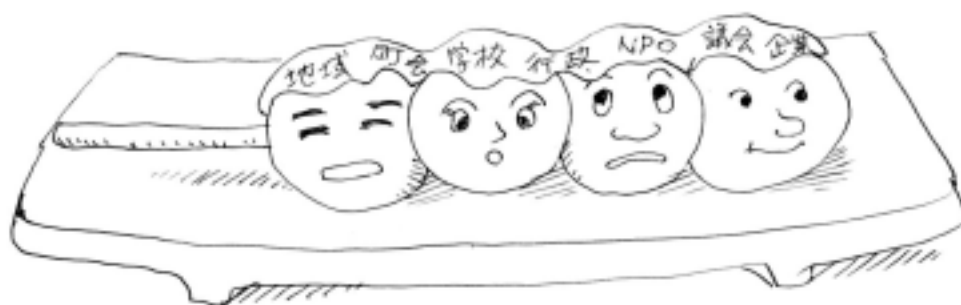
パートナーシップを推進するための方策の提言

今が旬！

まつど

パートナーシップが
おいしい

概要版



市民活動モデル調査ワーキングチーム

松戸市

平成 17 年 3 月 10 日

調査のあらまし

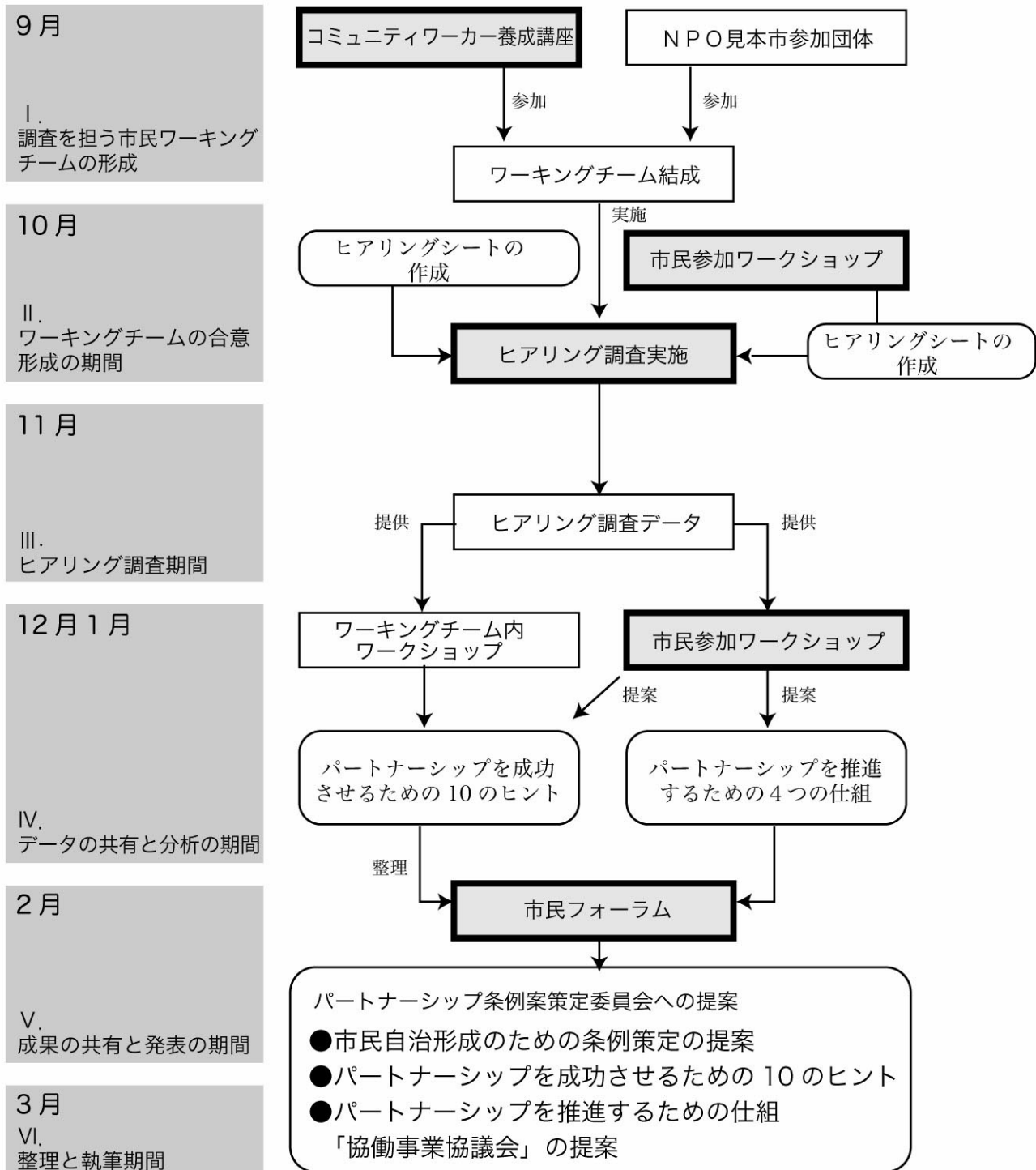
昨年9月に内閣府より委託され、松戸で活躍するNPOや企業、大学、町会など64団体に「参加と協働」をテーマにヒアリング調査を行いました。さらに、ワークショップや講座での検証、市の皆さんの意見交換の場としてのフォーラムを開催しました。

この調査を担ったのは、市民で構成されたワーキングチームです。市民が、条例への資料提供のデータをヒアリング調査で収集するのは、画期的な取り組みと注目されています。

調査から得たデータをもとに、ワーキングチームで考察を行い、「パートナーシップ条例案策定委員会」へ提言を提出しました。

この冊子は、その報告書の概要版です。

【調査のプロセスと構成】



パートナーシップの形態

あなたの団体のパートナーシップの形態は、どのタイプですか？

調査からわかった松戸市のパートナーシップの形態を五つのタイプに分類しました。

次のページに、それぞれのタイプが抱える課題を解決し、成功に導く「パートナーシップを成功させるための10のヒント」があります。

受託型 (たまご1)

行政や、NPOら実績のあるNPO・個人への施設運営、事業運営の委託。児童館委託事業が典型例。行政の考えていること、委託を受けた団体の行政への要望とのギャップがある。

プログラム 提案型 (ひな鳥)

NPOが、ある程度確立したプログラムを行政・NPOに持ち込み、双方の足りない資源を補うことで成立するパートナーシップ。事業に関するノウハウや、団体の活動基盤は弱い。

ボランティア 登録による受託型 (たまご2)

NPO（地球温暖化防止）は、小中学校の総合学習を事業とし、ミッションの浸透を進めている。現状を維持することが課題で、学校間のネットワークによる口コミに頼り、依頼を待っている。消極的パートナーシップ。

受託発展型 (巣立ち訓練)

行政や、NPOから事業委託。依頼に応じて活動しているが、事業提案の方法や、パートナーシップについて委託される側は積極的に考えている。委託事業を基に、自主事業に発展していく形

プログラム 提案型 (巣立ち1)

NPOが、ある程度確立したプログラムを行政、NPOに持ち込み、双方の足りない資源を補うことで成立するパートナーシップ。事業に関するノウハウの蓄積があり、パートナーシップを組む行政や、NPOは足りないものだけ提供する。活動基盤もある程度確立されている。

ネットワーク 提案型 (巣立ち2)

行おうとしている事業の目的に賛同する行政・団体を、ネットワークの中で募り、実行委員会形式で事業を一から作り上げていく。実行委員会の中で、事務局や、資金集め、人材開発などを分担することで、各々の苦手分野を補うことが出来る。

